

# 明 表 信 所

平成29年12月

三 象 山 片 長 市 脇 西

## 目 次

■はじめに	P 1
■がんばる「人」が輝けるまちづくり	P 3
■「新庁舎・市民交流施設」を核とした にぎわいづくり	P 5
■「健康」をキーワードとしたまちづくり	P 6
■地域特性を活かした「経済」の振興	P 7
■豊かな人材を育てる「教育」の充実	P 9
■市民生活を支える「住みやすさ」の向上	P 10
■おわりに	P 13

## ■はじめに

第60回西脇市議会定例会の開会に当たり、私の市政運営に対する所信を申し上げ、市議会並びに市民の皆様の御理解、そして御協力を賜りたいと存じます。

まず、議員各位におかれましては、先の市議会議員選挙において大変厳しい選挙戦を勝ち抜かれ、見事御当選されましたこと、この場をお借りしまして心からお喜びとお祝いを申し上げます。

西脇市のさらなる発展のため、ますます御精励賜り、御活躍されますようお願い申し上げます。

私も市長選挙におきまして、無投票という結果ではありましたが、引き続き市政運営を担わせていただく栄誉を得たところであり、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。

4年前、私は、経済の復活・教育の復活・住みやすさの復活を掲げ、栄えある新・西脇市の2代目市長に就任させていただき、以来、西脇を誇りと自信を持てるまちに、そして子や孫の代まで安心して暮らせるまちにしたいという強い思いのもと、全身全霊を傾けてまいりました。

その間、我が国では世界に類を見ない急速な人口減少、少子高齢化の進行に加え、人口の東京一極集中も進み、消滅可能性都市という地方自治体にとっては衝撃的な概念が登場してまいりました。

そこで、地方の人口減少に歯止めをかけ、国全体の活力を取り戻す

ための処方せんとして地方創生の取組がスタートし、まさに生き残り  
をかけたといっても過言ではない地域間競争が激化しているところ  
です。

そのような中、本市においては、経済・教育・住みやすさなど各分  
野における施策展開を図りつつ、地方創生においても、地域資源を活  
用した先駆的な取組を進め、新たな動きが芽吹きつつあるという手応  
えを感じております。

経済では、産業構造の多重化を目指した企業誘致をはじめ、地方創  
生の目玉でもある西脇ファッション都市構想や、日本のへそ・地域食  
材でおもてなし支援事業など、地域資源を活用しながら商工業、農業、  
観光を結びつけた取組を推進し、活性化につながる基盤づくりを進め  
てまいりました。

また、教育では、全国トップレベルの学力を目指し、きめ細かな学  
力向上事業を実施するとともに、懸案であった市内全ての認可保育所  
の認定こども園化を実現しました。

そして、住みやすさでは、防災対策や医療体制の充実、道路など都  
市インフラの整備や、茜が丘複合施設M i r a i e（みらいえ）のオ  
ープン、子育てにおける経済的負担の軽減などを進めてまいりました。

議員各位、そして市民の皆様には、この4年間の取組に対し温かい  
御理解と御協力を賜りましたこと、この場をお借りして深く感謝を申  
し上げる次第であります。

しかしながら、一方では、自然減と社会減による市内の人口減少になかなか歯止めがかからないという状況にあり、加えて、地域経済の低迷が続く中、市税収入が減少し非常に厳しい財政運営を迫られているのも事実です。

今後、新庁舎・市民交流施設、新ごみ処理施設の整備など、多額の事業費を要する大型事業が控えており、投資に見合う効果をいかにして発揮させるかという点を念頭に置きつつ、財政健全化も進めていかなければなりません。

そのような状況ではありますが、私は引き続き市政のかじ取りを担うに当たり、「復活から躍動へ」というキーワードを掲げました。

本市が未来に向かって前向きに、確かな歩みを進めていくためには、地方創生のように本市の強みを活かしたオリジナルな施策も展開し、まちにさらなる活力を生み出していくことが必要です。

そして、本市で活動する人がいきいきと輝き、躍動感あふれるまちを作り上げていくことも必要だと思っており、その躍動感のもとで、まちがもっと元気になっていくものと思っています。

ここからは、2期目を迎えるに当たっての、市政運営における私の基本的な考え方を申し述べたいと存じます。

## **■がんばる「人」が輝けるまちづくり**

まちづくりの原動力は「人」です。人が輝くことでまちも輝き、まちに躍動感が生まれてくるものと思います。

様々な分野で積極的に活動を行う方々、意欲的にチャレンジを続ける方々をバックアップし、活躍できる環境づくりを進めることで、まちの活力向上を図ってまいります。

まず、本市の市民自治を支える地域活動については、地域の課題解決や魅力づくりに向け、従来からの各地区におけるまちづくり活動とあわせ、地域一体となって取組を進めていただく地域自治協議会の活動をしっかりと支援してまいります。

また、テーマに沿った社会的課題の解決や、まちの魅力を高める公益的な活動に積極的に取り組もうとされる方々に対しても支援を行うなど、参画と協働のまちづくりを進めながら、まちへの誇りや愛着も育んでまいりたいと思います。

そして、女性の活躍支援や、高校生・大学生など若者の活躍支援にも力を注いでまいりたいと考えております。

国においては、女性の力を我が国最大の潜在力と捉え、女性が輝く社会をつくることが最重要課題の一つとして挙げられているところであり、活気あふれるまちを作り上げていくためには、女性の力が不可欠だと考えます。

市内で起業される女性も増えつつあり、誰もが家庭、地域、職場などにおいて個性と能力を発揮し、様々な分野で一步を踏み出せるよう後押しするため、男女共同参画センターにおける事業展開などを通じて、女性活躍の視点に立った支援を行ってまいります。

また、高校生や大学生など若者が活躍できる環境づくりも進めてまいります。

本市には、それぞれ特色を有する県立高校が3校立地しており、金ゴマ栽培を通して、各校の得意分野を活かす形での連携も始まっております。

そして、近年は大学との連携にも積極的に取り組んでおり、本市を題材とした連携授業を実施いただいているほか、市内を研究のフィールドとして活動する大学生の数も増えつつあります。

高校生や大学生が実践する地域活動を支援することで、若者と本市との縁や絆がより強固なものとなり、これからの地域社会を担う人材の育成にもつながるものと期待しており、若者の視点からの様々な提案やアイデアをまちづくりにも取り入れつつ、将来のUターンやIターンにもつなげてまいりたいと考えております。

## **■「新庁舎・市民交流施設」を核としたにぎわいづくり**

かねてから申し上げておりますとおり、新しい市庁舎と、市民会館としての機能も果たす市民交流施設の整備は、本市の将来に大きな影響を及ぼす50年に一度の大事業であり、中心市街地活性化の起爆剤ともなるよう、しっかりと取組を進めてまいります。

市庁舎と市民交流施設については、市民の利便性・職員の生産性・施設の稼働率を重視し、従来の概念にとらわれることなく、諸室の共有化や多機能化なども念頭に置きつつ、整備を進めてまいります。

また、健康ゾーンの整備や、多様な市民活動が展開できるスペース、またにぎわいを生み出す施設などについてもより具体的な検討を進め、

周辺にも好影響を及ぼすような新たな人の流れやにぎわいを作り出したいと考えております。

また、アクセス性の向上を目指し、周辺道路の整備も進めてまいりますとともに、新庁舎整備を契機とした公共交通の再編にも取り組んでまいります。

現在、公共交通網形成計画の策定を進めておりますが、計画の中で、市民の移動手段の確保と利便性の向上に向けた全市的な交通ネットワークの在り方を明らかにしてまいります。

## ■「健康」をキーワードとしたまちづくり

高齢化が急激に進行する中、生涯健康に生活できる健康寿命の延伸は、我が国全体の大きな課題となっております。

今後の地域社会を考える上で、また市民の皆様が様々な活動を展開される上でも、「健康」はその基盤となる非常に重要な要素だと考えております。

医療や福祉の充実とともに、健康に配慮した取組を推進することで、健康寿命の延伸を図り、市民の皆様が健やかで幸せに暮らせるまち、いきいきと活動し活躍できるまちを目指し、「健康」をキーワードとしたまちづくりに取り組んでまいります。

その中で、新庁舎整備において、市民の健康づくりの拠点となる健康ゾーンの整備について検討を進めたいと考えております。

医師会など関係団体とも連携しながら、健康ゾーンを拠点とした疾病予防や介護予防、健康増進に向けた取組、また市民の健康づくり活

動を促進する取組などについても検討を進めるとともに、ライフステージに応じた健康づくり活動への支援などを通じて、市全体に健康づくりの輪を広げてまいりたいと考えております。

また、健康ポイント制度について、より効果が高まるような仕組みを検討するなど、日々の生活の中で健康を意識できるような仕掛けづくりを念頭に置きながら、市民の自発的な健康づくり活動を支援してまいります。

## ■地域特性を活かした「経済」の振興

地域経済を取り巻く環境は依然厳しいものがありますが、産業構造の多重化とともに、播州織、山田錦、黒田庄和牛といった特産品に加え、イチゴや金ゴマ等の新たな農産品など、市内外に誇れる様々な地域資源を活用しながら、新たな担い手の育成や外部人材の流入を促進しつつ、地域特性を活かした経済の振興を図ってまいります。

経済振興の鍵を握る産業構造の多重化では、その一翼となる新産業の導入に向けて、様々な支援策を講じながら、新規用地の確保や既存用地への産業誘導を進め、優良な働く場の創出を目指してまいります。

また、既存商工業については、商工会議所や関係団体との連携により、商工業者の技術力や競争力強化に向けた支援を行うとともに、起業・創業や、新たな事業展開に向け意欲的にチャレンジをされる方に対しても、積極的に支援してまいります。

地方創生の重点プロジェクトである西脇ファッション都市構想の推

進では、本市に定着した若手デザイナーたちが播州織産地に新たな風を吹き込んでくれています。

引き続き人材育成や最終製品の創出に向けた支援を進め、産地企業のイノベーションを誘発し、地場産業・播州織のブランド力を高めてまいります。

また、産地のブランド化の推進により、国内外への発信力の向上やインバウンド等の新たな需要の創出を図り、まちのブランド力を高めるとともに、ものづくりの付加価値も高めてまいりたいと考えております。

農業では、同じく重点プロジェクトである日本のへそ・地域食材でおもてなし支援事業を推進し、農業、商工業、観光の連携による経済の好循環づくりを目指すとともに、日本酒や西脇ローストビーフを中心としたイベント展開により、本市の地域食材の魅力発信やブランド力の強化を図ってまいります。

また、担い手不足や後継者不足対策として、スイーツファクトリー支援事業や農福連携事業など、特色ある事業展開を通じた新たな担い手の育成にも取り組んでまいります。

そして、酒蔵の復活により、雇用の創出、地産地消の推進、交流人口の拡大など様々な相乗効果が期待できます。また、西脇産の良質な山田錦を原料とした日本酒の製造、すなわち最終製品の創出が可能となります。西脇発の日本酒ブランドの創出に向け全力で取り組んでまいります。

観光については、商工業や農業などの要素に体験交流を加えた着地

型観光の提案や各種の誘客事業を展開するとともに、情報発信については、SNSなどの多様なコミュニケーション手段も活用し、交流人口の増加を目指してまいります。

## ■豊かな人材を育てる「教育」の充実

未来を担う子どもたちは西脇の宝であり、知・徳・体の全てをバランスよく身に付けた子どもたちを育むため、学校園、家庭、地域それぞれにおける教育力の向上を目指してまいります。

子どもたちを取り巻く課題は複雑化しておりますが、いじめや不登校などの未然防止に努め、子どもたちがいきいきと、のびのびと学べる環境づくりを進めてまいります。

学校教育では、引き続き全国トップレベルの学力を目指し、学力向上ウィークの実施や学習支援指導員の配置など、学力向上に特化した取組を充実させるとともに、ICTの効果的な活用など、学習意欲をより高めるための取組も進めてまいります。

英語教育については、小学校における教科化を見据え、教職員の指導力の向上を図るとともに、コミュニケーション能力を育むことも目指し、聞く・話す能力の向上にも力点を置いてまいります。

また、児童生徒にふるさとの素晴らしさを直接語りかける市長特別授業など、郷土愛を育む教育も進めながら、家庭や地域と一体となって、心豊かな人づくりを進めてまいります。

就学前教育では、市内全ての認可保育所の認定こども園化により、

本市における新たな就学前教育・保育の環境を整えたところであり、より質の高い教育・保育の提供に向けた取組を進めてまいります。

学校園施設については、現在実施中の西脇小学校の保存改修工事を着実に進めてまいりますとともに、安全・安心な教育環境の確保のため、今後も施設の計画的な維持管理を図ってまいります。

芸術・文化・スポーツの振興については、市民、各種団体、グループ等の自主的かつ多彩な活動を支援してまいりますとともに、子どもたちが一流の芸術・文化に触れる機会やスポーツに親しむ機会を充実させ、将来への夢や希望を育てまいりたいと考えております。

そして、3年後に迫った東京オリンピック・パラリンピックについては、関係各位の御尽力により、オーストラリア卓球チームの事前合宿の誘致に成功いたしました。

これを契機に、オリンピックやパラリンピアンによる講演会やスポーツ教室を開催するなど、市民全体で気運を盛り上げてまいりますとともに、卓球を通じた生涯スポーツの推進も図ってまいります。

## **■市民生活を支える「住みやすさ」の向上**

子どもからお年寄りまで、市民の皆様が安全・安心を実感しながら、ここに住み続けたいと思えるようなまちとなるよう、様々な分野における取組を充実させる必要があります。

防災対策については、頻発する台風や局地的な豪雨などに対応する

ため、地域の実情に応じた水害対策を進めるとともに、タイムラインを活用し水害への備えを見える化して防災意識を高め、ハード・ソフト両面からの取組を地域と一体となって進めてまいります。

また、地震への備えも含め、被害を最小限に食い止めるためには、自分たちの身は自分たちで守るという心構えも非常に重要であり、防災意識の高揚や、地域防災力の強化も図ってまいります。

地域医療については、圏域の拠点病院である西脇病院の機能強化や人材の確保を図ってまいります。

また、地域医療を守る市民活動も応援していくとともに、適正受診に対する啓発も進めてまいります。

健康や生活に不安を抱える高齢者が増加する中、住み慣れた地域で自分らしい生活を送れるよう、医療、介護、介護予防、住まい、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に向けた取組を引き続き推進いたします。

障害者福祉では、手話施策を推進するとともに、健診や相談体制の充実、障害の早期発見・早期療育への支援、さらには保健・医療・福祉等の連携強化により、切れ目のない支援体制の整備に取り組んでまいります。

子育て環境については、近年特に力を注いでいる分野でもあり、保育料や医療費、予防接種、各種健診費用など子育てに要する経済的負担の軽減を図ってまいります。

また、妊娠から出産、子育て期まで、保健師や子育てコンシェルジュ

ユが全ての子育て家庭に寄り添い、それぞれの世代や状況に応じたきめ細かなサポートを切れ目なく支援する体制など、安心して子どもを産み育てられる環境の充実に努めてまいります。

茜が丘複合施設M i r a i e（みらいえ）については、子育て、図書館、男女共同参画、地区コミュニティセンターという各機能の効果をより高めるため、地域や関係団体と連携しながら様々な事業を展開するとともに、居心地の良い理想の居場所であり続けられるよう、施設としての魅力の維持向上にも努めてまいります。

都市機能については、交通アクセスの向上に向け、国道175号西脇北バイパスの一日も早い整備と黒田庄地区以北のルート決定が望まれております。緊急時における「いのちの道」としての役割も果たすこの道路の整備事業を支援するとともに、議員各位や地元住民の皆様と整備促進に向けた要望活動を続けてまいります。

県道路事業についても円滑な事業推進に協力を行うとともに、市道市原羽安線も着実に整備を進めてまいります。都市計画道路和布郷瀬線、いわゆる南北道路についても、整備方針の検討を進めてまいります。

また、道路、橋梁、上下水道設備などのインフラについては、人口減少時代を見据えた計画的な改築更新と適正な維持管理を行ってまいります。

環境については、市太陽光発電所における売電収入を環境基金に積み立て、再生可能エネルギーの利活用により得られた原資を様々な施

策に活用していくなど、市民の環境に対する意識のさらなる向上を図ってまいります。

新ごみ処理施設については、多可町とともに1市1町の枠組みで、「燃やすから生かす」という考えのもと、さらなるごみの減量や資源化に取り組み、環境負荷の低減に配慮しながら、2024年度からの新施設稼働を目指してまいります。

空き家対策については、防災、景観、環境面等で問題のある特定空家の除却等を進めていく一方、良質な物件は、居住の促進とともに、まちのにぎわいづくりにも資するような利活用の方策について検討を進めてまいります。

## ■おわりに

ここまで、今後の市政運営における基本的な考えを述べさせていただきました。

現在、新しい総合計画の策定を進めているところでもありますが、将来にわたって安全・安心で活力ある地域社会を維持していくためには、人口減少や少子高齢化への対応を念頭に置きながら、今まで申し上げてきたような考え方も踏まえつつ、縮小均衡を漫然と迎えるのではなく、主体的に未来を切り開いていかなければなりません。

施策の展開に当たっては、限られた財源や人的資源の中でより効果が上がるよう、組織の枠を超え様々な取組を一体となって進めていかなければならないと考えており、必要に応じ、広域での連携や外部機

関との連携を図っていくことも重要だと考えております。

また、本市の様々な取組や魅力、市民の皆様の多彩な活動などを見える化し、シティプロモーションなどを通じて効果的に発信していくことで、市民の皆様のこのまちに対する誇りや愛着を高めつつ、市外からの人材の流入も図り、「選ばれるまち」を目指してまいります。

冒頭でも申し上げましたとおり、本市で活動する人が輝き、躍動感が感じられるまちを作り上げることで、西脇をもっと元気にしていきたいと考えております。今一度初心に戻り、市民の皆様の声にもしっかりと耳を傾けながら、全力で市政に取り組んでまいりますことをここにお誓い申し上げます。

どうか、市民の皆様には御理解と御協力を重ねてお願い申し上げますとともに、議員各位におかれましても、引き続き格別の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げ、私の所信表明とさせていただきます。